

国際協力事業団年報

2000

JICA  
*Japan International Cooperation Agency*

●●●【特集】●●●

ボランティア国際年に向けて



CD-ROM 付

人造り、国造り、心のふれあい

国際協力事業団

## JICA本部および国内機関

### [本部]

#### 国際協力事業団

〒151-8558 東京都渋谷区代々木2-1-1

新宿メインスタワー6F～13F

TEL (03)5352-5311～5314

ホームページ <http://www.jica.go.jp/>

#### ●青年海外協力隊広尾訓練研修センター

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

TEL(03)3400-7717 (代)

### [国内機関]

#### ●国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

TEL (03)3269-2911 (代)

#### ●北海道国際センター(札幌)

〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25

TEL (011)866-8333 (代)

#### ●北海道国際センター(帯広)

〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2

TEL (0155)35-1210 (代)

#### ●筑波国際センター

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6

TEL (0298)38-1111 (代)

#### ●東京国際研修センター

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5

TEL (03)3485-7051 (代)

#### ●八王子国際研修センター

〒192-0043 東京都八王子市暁町2-31-2

TEL (0426)26-5411 (代)

#### ●神奈川国際水産研修センター

〒238-0316 神奈川県横須賀市長井5-25-1

TEL (0468)57-2251 (代)

#### ●中部国際センター

〒465-0094 愛知県名古屋市長区亀の井2-73

TEL (052)702-1391 (代)

#### ●大阪国際センター

〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1

TEL (0726)41-6900 (代)

#### ●兵庫インターナショナルセンター

〒654-0076 兵庫県神戸市須磨区一ノ谷町4-5-10

TEL (078)734-5175 (代)

#### ●中国国際センター

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1

TEL (0824)21-6300 (代)

#### ●九州国際センター

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1

TEL (093)671-6311 (代)

#### ●沖縄国際センター

〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1

TEL (098)876-6000 (代)

#### ●海外移住センター

〒235-0007 神奈川県横浜市磯子区西町16-5

TEL (045)751-1121 (代)

#### ●二本松青年海外協力隊訓練所

〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2

TEL (0243)24-3200 (代)

#### ●駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15

TEL (0265)82-6151 (代)

#### ●東北支部

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1

仙台第一生命タワービル15F

TEL (022)223-5151 (代)

#### ●関東支部

〒336-0002 埼玉県浦和市北浦和4-5-5

北浦和大栄ビル7F

TEL (048)834-7770 (代)

#### ●北陸支部

〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-3

リファーレビル3F

TEL (076)233-5931 (代)

#### ●四国支部

〒760-0050 香川県高松市亀井町5-1

百十四ビル13F

TEL (087)833-0901 (代)

正 誤 表

ページ	行または場所	誤	正	備考
目次	フロントライン 20行目	高等海事学院	水産専門技術訓練センター計画	
35	図表1-6の予算額(3) 技術協力の(うちJICA)の行	(1,751)	(1,770)	1,751には、出資金が未算入
		(1,766)	(1,792)	1,766には、出資金が未算入
		(0.9)	(1.2)	伸び率
36	図表1-8 外務省の(うちJICA)の行 伸び率	(0.9)	(1.2)	
42	図表1-15 技術協力1999年度の帯グラフ	アジア 40.8% (608.43)	アジア 42.6% (636.39)	
		中南米 20.6% (307.64)	中南米 20.6% (308.19)	
		ヨーロッパ等 4.6% (69.33)	ヨーロッパ等 2.7% (40.81)	
188	表「JICA事業実績の概要」の「2 JICA技術協力経費実績」1999年度の行	1,418億円	1,495億円	1,418億円には、委託費が未算入
	表「JICA事業実績の概要」の「11 緊急援助(物資供与)件数」	(物資供与)	(緊急援助隊派遣及び物資供与)	
	表「JICA事業実績の概要」(注)2	2 協力隊派遣数には、日系社会青年ボランティア、国連ボランティアを含む。	2 協力隊派遣数の1998年度は日系社会青年ボランティア・国連ボランティアを含み、1999年度は含まない。	1999年度よりボランティアは、別途集計(P.190)

訂正表(P195~198)            が正しい数値となります。

国 名	わが国のODA (1999年)			JICAの技術協力 (1999年度)													
	無償資金協力 (百万ドル)	技術協力 (百万ドル)	政府貸付等 (百万ドル)	技術協力経費 (億円)	研修員 (人数)		専門家 (人数)		調査団 (人数)		協力隊 (人数)		その他ボランティア (人数)		機材供与 (百万円)	プロジェクト方式技術協力 (件数)	開発調査数 (件数)
					新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
ミャンマー	9.08	15.47	9.63	10.86	124 + 11	66 + 10	59 + 6	+	+	+	+	308.81	2				
フィリピン	6.50	1.34	2.99	3.52	16 +	+	41 +	+	+	+	+					3	
キルギス	8.11	8.71	45.68	5.35	47 + 2	6 + 3	61 +	+	+	+	2	6.15				3	
ヴァヌアツ	5.15	2.40	-0.10	2.38	17 + 1	2 + 1	5 +	7 + 16	+	+	+	49.97					
バルバドス		0.25		0.18	3 + 3	2 + 1	+	+	+	+	+	0.27					
トミニカ共和国	16.10	9.76	3.84	10.28	54 + 6	26 + 15	42 + 2	16 + 36	11 + 16	+	+	63.05	2			1	
エチオピア	32.51	7.89		7.90	86 + 12	14 + 8	21 +	6 + 15	+	+	+	154.16	1			1	
ウガンダ	21.30	6.92		8.34	90 + 3	18 + 16	18 +	+	+	+	+	227.51	1				
チュニジア	0.78	7.56	21.51	11.41	42 + 6	22 + 9	95 +	8 + 27	+	+	+	135.13	2			4	



国際協力事業団年報

2000

●●●【特集】●●●

ボランティア国際年に向けて

国際協力事業団

---

---

## JICAの概要

- 1 設立 1974年8月1日
- 2 目的 国際協力事業団法（1974年法律第62号）に基づき設立された特殊法人で、開発途上地域などの経済および社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的とする。
- 3 資本金 1300億円（2000年3月31日現在）
- 4 予算 1874億円（2000年度）
- 5 役職員数 1218人（2000年度）

---

---

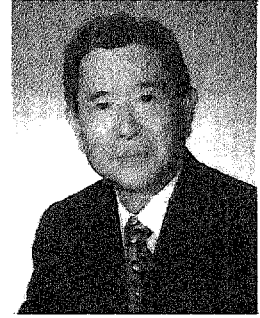
本書は再生紙を使用しています。



1159710【1】

マイクロ  
フィルム作成

# 序



2000年、この20世紀と21世紀の分水嶺の年に、今一度これまでのわが国の国際協力を振り返り、その経験と教訓を元に次なる一步を踏み出す必要があると考えています。

この半世紀を振り返れば、途上国に対するわが国の国際協力は大きな成果をおさめ、特に東アジアの国々の目覚ましい経済成長の実現にわが国の資金協力、技術協力が多大な貢献を行ったことは歴史に刻まれるべきことだと思います。この成功の背景にはいわゆるジャパンモデル（変革の原動力として基礎教育重視、平等な社会的／経済的機会の創出、国家政策と市場との良好なバランス等）を途上国に伝えてきた努力があり、今後も益々その重要性が増してくるものと考えています。

一方、現在の途上国がおかれている状況は、依然13億人が絶対的な貧困状態を余儀なくされ、安全な水を得られない人も11億人に達しています。また最近の情報技術（IT）革命等によるグローバル化は、97年のアジア経済危機にそのマイナス面が集中的に現れたように、光と影の両面をあわせ持ち、グローバル化にとり残された多くの途上国では貧富の格差がかえって増大するという悪循環に陥りつつあります。環境、エイズ、薬物等の地球的規模の問題も益々深刻化し、途上国のみならず先進国自らの問題にまで拡大しています。

この空間の縮小、時間の短縮、境界の消滅というグローバル化の動きはかつてない速さで浸透しており、国際協力の実施にあたっては従来の国という枠を超えて素早く柔軟に対応する必要に迫られています。具体的にはグローバル化の波に翻弄されている途上国の人間ひとり一人の安全と幸福を主眼にした協力を重視したり、開発援助が効果

を發揮するような人材と制度を養成する等のソフト面での支援を強化したりと、新しい協力のあり方が模索されています。

私ども国際協力事業団（JICA）は、「人造り、国造り、心のふれあい」をキャッチフレーズに、途上国の経済、社会が自立的かつ持続的に発展できるように、国造りの主体となる人材の養成を行ってきました。今後とも「人」を育て、「人」に活動の場を与え、「人」の交流を深めるという「人」本位の協力を進めていきたいと考えています。そのことがジャパンモデルの根幹をなす教育重視の教訓に学ぶことであり、グローバル化の波に翻弄される多くの途上国の国民を支援する近道だと信じております。

本書は1999年度におけるJICAの事業実績と活動状況をまとめたものです。冒頭に「ボランティア国際年に向けて」という特集を設け、まさしく国際ボランティアの先駆者といえる青年海外協力隊の35年間の足跡、さらにシニア海外ボランティア等の新しい動きについても紹介いたしました。本書を通じJICA事業に対する皆様のご理解がさらに深まることを期待するとともに、今後とも事業の進め方等に対してご示唆、ご鞭撻を賜れば幸いです。

2000年10月

国際協力事業団  
総裁

斎藤 邦彦

# 国際協力事業団年報2000 目次

## 第I部 ODAとJICA事業

<b>第1章 特集 ボランティア国際年に向けて</b>	
青年海外協力隊の足跡 .....	10
シニア海外ボランティア事業 .....	14
<b>第2章 JICA事業における新たな取り組み</b>	
開発パートナー事業 .....	17
ODA中期政策とJICA .....	20
新たなニーズへの対応	
留学生支援 .....	23
政策制度支援 .....	24
紛争と開発	
冷戦終結後の紛争の特徴と開発援助の役割 .....	27
JICAの平和構築支援の現状 .....	29
今後の課題 .....	32
<b>第3章 わが国のODAとJICA事業概況</b>	
わが国のODAとJICA .....	34
1999年度JICA事業概況 .....	41

## 第II部 JICA事業の地域別取り組み

<b>第1章 東南アジア地域</b> .....	46
<b>第2章 インドシナ地域</b> .....	51
<b>第3章 東アジア地域</b> .....	56
<b>第4章 中央アジアおよびコーカサス地域</b> .....	61
<b>第5章 南西アジア地域</b> .....	66
<b>第6章 大洋州地域</b> .....	71
<b>第7章 中米およびカリブ地域</b> .....	75
<b>第8章 南米地域</b> .....	81
<b>第9章 アフリカ地域</b> .....	86
<b>第10章 中近東地域</b> .....	94
<b>第11章 ヨーロッパ地域</b> .....	99

## 第III部 JICA事業の仕組み

<b>第1章 発掘形成・計画策定</b>	
案件の発掘と形成 .....	106
<b>第2章 事業の実施</b>	
技術研修員受入 .....	111
青年招へい .....	117
技術協力専門家派遣 .....	120
プロジェクト方式技術協力 .....	123
開発調査 .....	129
無償資金協力 .....	133
青年海外協力隊派遣 .....	137
開発協力 .....	144
災害緊急援助 .....	148
移住者・日系社会支援 .....	151



### 第3章 評価・フォローアップ

評価	154
フォローアップ	159

### 第4章 事業実施基盤の強化

調査研究	163
技術協力専門家養成・確保	166
専門家活動の支援体制	169
情報公開と広報	171

### 参考 事業団の組織と予算

沿革	178
組織と定員	179
国内機関の事業概要	182
予算	183
財務諸表	184

国際協力の進展	199年度のJICAの歩みと内外の動き	186
---------	---------------------	-----

### 付表 1999年度最終事業実績

統計を見るときにの注意、JICA事業実績の概要	188
事業別経費実績	189
事業別人数実績	190
形態別・分野別人数実績	191
地域別・国別事業実績	195
1999年度開発調査案件一覧	200
1999年度プロジェクト方式技術協力案件一覧	202
1999年度無償資金協力案件一覧	204
1999年度開発協力調査等一覧	205

開発援助用語・JICA関連用語	206
-----------------	-----

JICA在外事務所	210
-----------	-----

ODAに関する情報文献（JICA作成）一覧	212
-----------------------	-----

### コラム記事



平和構築へのほかのドナーの取り組み	32
-------------------	----

### Close Up

トルコ北西部地震復興支援プロジェクト形成調査	110
第13回青年招へいASEAN同窓会交流連絡会	117
アフリカ人造り拠点（AICAD）	127
東チモール緊急復興支援案件	132
災害復旧に貢献する無償資金協力事業	135
フィリピン・サトウキビ栽培試験事業	147
トルコ地震緊急援助隊	150
日本語教科書開発基礎調査	152
特定テーマ評価「タイ障害者支援」	157
南部アフリカに関する援助研究会	163

## Front Line

紙作りプロジェクト	パキスタン	13
人口家族保健フロントライン計画プロジェクト	フィリピン	49
現地NGOへの支援	カンボディア	53
シャン州北東部国境地域村落開発技術協力	ミャンマー	55
気象観測施設整備計画	モンゴル	58
果樹栽培・病虫害駆除	中国	59
積雪寒冷地における生活環境改善のための工学技術	ウズベキスタン、カザフスタン	63
民主化セミナー	タジキスタン	65
カトマンズ国際空港整備計画	ネパール	69
繊維製品品質向上プロジェクト	スリ・ランカ	70
幹線道路整備・改良工事	ミクロネシア	74
グアナファト州僻地農村住民参加型公衆衛生改善計画	メキシコ	78
シャーガス病対策計画	グアテマラ	79
再生可能エネルギー利用地方電化計画	ボリヴィア	83
フケネ湖周辺環境改善計画調査	コロンビア	85
マラウイ湖生態総合研究	マラウイ	90
西アフリカ安全な水確保・域内協力ワークショップ	セネガル	91
母子保健医療サービス向上計画	ガーナ	92
開発教育の試み	エジプト	97
高等海事学院	モロッコ	98
はっ酵乳製品開発	ブルガリア	101
スポーツ隊員	ルーマニア	102
ペルーへの鑄造技術移転のための岩手県・JICA合同調査団派遣	岩手	107
循環システムによる環境保全型持続的農林業セミナー	鹿児島	115
ASEAN混成障害者福祉グループ	北海道	119
第7保健地域リプロダクティブ・ヘルス向上プロジェクト	ホンデュラス	139
小学校理数科教員	ミクロネシア	142
国際協力実体験プログラム	神奈川	153

## 図表

図表1-1	青年海外協力隊チーム・グループ派遣実績 (1999年度)	11
図表1-2	青年海外協力隊派遣の実績	13
図表1-3	開発パートナー事業実施の流れ	18
図表1-4	1999年度開発パートナー事業仮採択13件	19
図表1-5	対外支援の役割	28
図表1-6	政府全体のODA予算額 (一般会計)	35
図表1-7	経済協力と政府開発援助	35
図表1-8	省庁別ODA予算推移 (一般会計)	36
図表1-9	JICA以外のODA実施機関の技術協力実績事例 (1999年度)	36
図表1-10	わが国のODA予算とJICAの技術協力実績 (DACベース)	37
図表1-11	1998年、1999年のDAC諸国のODA実績	38
図表1-12	1999年のわが国のODA実績 (援助形態別)	39
図表1-13	わが国のODA実績とJICA事業	41
図表1-14	JICA予算の推移	42
図表1-15	地域別経費実績構成比	42
図表1-16	分野別経費実績構成比	43

図表1-17	形態別人数実績の推移	43
図表1-18	1999年度事業別経費実績と構成比	44
図表1-19	事業別経費累計実績と構成比	44
図表3-1	個別技術プロジェクトの流れ	109
図表3-2	技術研修員受入の形態と1999年度新規受入実績	113
図表3-3	パートナーシップ・プログラムの締結年と内容	116
図表3-4	地域別に見た技術研修員(1999年度本邦研修)	116
図表3-5	分野別に見た技術研修員(1999年度本邦研修)	116
図表3-6	青年招へいプログラム構成	118
図表3-7	プロジェクト方式技術協力の流れ	124
図表3-8	開発調査の対象分野	130
図表3-9	開発調査の手順	131
図表3-10	無償資金協力事業のサイクルと主要業務	134
図表3-11	青年海外協力隊派遣から帰国までの流れ	138
図表3-12	開発協力事業の内容	144
図表3-13	開発協力事業の手順	145
図表3-14	投融資の貸付条件	146
図表3-15	災害緊急援助決定の仕組み(資金援助を除く)	148
図表3-16	わが国の国際緊急援助体制	149
図表3-17	プロジェクト・サイクルにおける評価の位置づけ	155
図表3-18	国別援助研究の流れ	164
図表3-19	1999年度調査研究実績	165
図表3-20	1999年度技術協力専門家養成研修開講コース	167
図表3-21	専門家の待遇・福利厚生制度	170
図表3-22	ホームページで閲覧可能なJICA情報一覧	172
図表4-1	2000年度機構図	180
図表4-2	国内機関(国内支部を除く)の事業概要	182
図表4-3	2000年度予算	183
図表4-4	貸借対照表	184
図表4-5	損益計算書	185

### 国際協力事業団年報2000資料編(CD-ROM)収録内容

研修員受入事業	無償資金協力事業	地域別・形態別・分野別人数実績
青年招へい事業	国際緊急援助隊	地域別・国別・分野別経費実績
個別専門家派遣事業	形態別・事業別・年度別総括実績	地域別・国別・予算科目別経費実績
フォローアップ協力事業	年度別・形態別実績総括	国別・形態別・分野別実績
プロジェクト方式技術協力事業	地域別・形態別実績(経費・人数)	技術協力(暦年ベース)および無償
開発調査事業	経費実績の事業別構成比	資金協力(会計年度ベース)実績
開発協力事業	形態別被援助国上位20カ国	

## 国際協力事業団年報の見方

- 1 この年報は、1999年度（1999年4月1日から2000年3月31日まで）の国際協力事業団の活動をまとめたものです。
- 2 収録した事業実績に関する統計等の数値は、国際協力事業団に関するものは上記1999年度について、政府開発援助（ODA）に関するものは1999年（1999年1月1日から同年12月31日まで）について集計したものです。
- 3 金額の表示単位のドルは、すべて米ドルです。  
換算レートは1米ドル＝113.90円（1999年のDACの指定レート）を使用しています。
- 4 本誌で使用している地図はすべて略図で、国境紛争地域、国境不明確地域などの国境線は、便宜上付したものです。
- 5 \*印の用語については、巻末の「開発援助用語・JICA関連用語」をご参照ください。